

一九七七年以前出土の木簡（四）

1977年以前出土の木簡（四）

- 1 所在地 奈良市佐紀町・北新町・法華寺町
2 調査期間 一九六四年（昭39）一二月～一九六五年（昭40）三月
3 発掘機関 奈良国立文化財研究所
4 調査担当者 横本亀治郎
5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代初期
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

平城宮跡第二二次南の調査は、平城宮東張り出し部と称する地域の西辺部分に当る。当初この地域は、宮域東面大垣の中門の外側で、東一坊大路と一条南大路とが交わる点と考えていたが、第三九・四四次調査で東張り出し部分の存在及びその南限と東限を確認したことによつて、この地区が平城宮内であることが確認された。第二二次南調査での木簡出土の総点数は五十八点である。また、木簡の出

土をみた遺構は六〇個所をこえており、発掘区域のほぼ全域から木簡が出土したといつても過言ではない。その遺構の種類も、溝、井戸、土壙、整地層、掘立柱穴等多様である。これらの木簡出土遺構のうち、木簡が顕著に出土した遺構は南北溝SD三三四一〇、斜行溝SD三一五四及び南北溝SD三一五五、掘立柱建物SB三三三二の柱穴等である。このうちSD三四一〇から六五点、SD三一五四及び三一五五から四一点、SB三三二一の柱穴から三〇点、木簡が出土している。

第二二次南調査の発掘で発見された主要遺構と、これらの木簡出土遺構の関係は、おおよそ次の通りである。同発掘調査区域内は南北溝SD三二三六及び南北溝SD三一九七によつて、東西にほぼ三分割される。SD三二三六以西では、堀SA三二三七及び南北溝SD三四一〇があつて、平城宮の東張り出し部分と宮の本体との一応の区画をなしている。SD三二三六とSD三一九七とでかこまれた部分では、東西棟SB三二二一と同じく東西棟SB三一八八があり、その南方に井戸SE三二三〇がある。SE三二三〇は木材を井桁に

くみあげたもので、その周囲は石敷となり、さらに玉石組の小溝が井戸のまわりをとりかこんでいる。この二棟の掘立柱建物と井戸は一つの官衙組織のブロックを形成していたものと思われ、北を堀S A三三六二で、西を堀S A三三七で区切られている。次に、SD三二九七より以東の部分は、さらに北半部分と南半部分とに細分され、北半部分は斜行溝SD三一五四及びそれに南接して南へ流下する溝SD三一五五があり、その北方に堀S A三一七七、三一七八が存在する。南半部分は東西棟SB三〇七九、南北棟（門）SB三一六などから構成されている。北半部分の遺構が中央のSB三三三二二を中心とする建物群から明確に区別されていないのに対し、南半部分は、中央部分から一応独立した区画をなし、発掘区の東南方にひろがると予想される宮内のブロックの一部分かと考えられる。

以下、第二二次南の発掘調査区について、前述した三つのブロックにしたがつて、木簡の主要な出土遺構に関しその概要を記すこととする。

(1) 西ブロック (SD三一一六以西)

S D三四一〇 最初素掘りであつたが、のち西壁は玉石積あるいは杭列で護岸している。幅三m、深さ一・五mである。第二九次及び第三二次調査でその南延長部と南端部を検出しており、平城宮南辺までつくられていたことがわかつてゐる。木筒は溝内の三層にわたる堆積層のうち、最下層から六五点出土している。中には木筒番

号二五五一のよう郷里制記載をもつものもある。

第22次南調査区の木簡出土遺構配置図

S D III-三六 素掘りの溝で、一回の改修をうけ、三時期に区別している。

両岸に杭をうつっている。もつとも新しい溝は幅一・二mと小さくなっている。木簡は各溝から計三三点出土している。

S A 三三七 SD 三三六の西方にある南北塀で、木簡は南から二番目の柱穴から五二点出土したが、削り屑が大部分である。

(2) 中央ブロック

S D 三三九七 中央ブロックの東辺にあって南北に流れる溝である。二期あって、新しい溝は幅一・二m、深さ二〇cmで部分的に側壁に玉石積がのこっている。古い溝は新しい溝よりやや幅がひろく、西壁が新しい溝より西方へ浅くひろがっている。木簡は新古両溝から三三点出土した。また新しい溝から神功開宝一点が出土している。

S B 三三一一 この地域の北寄りで検出した七間×五間の東西棟建物で四面廂と北側に孫廂がついている。木簡は東妻の南から二番目の掘形の埋土の最上層にたまつた砂層から四五点出土している。

S A 三三六一 S B 三三一一の北方三mに検出した東西塀で、木簡は東から第一、三、四番目の柱掘形内から一四点出土した。

S E 三三一〇 この地域の南部中央に検出した一辺二mの方形の井戸である。井戸枠は井籠組となつておらず、最下段のものののみのこつていた。木簡は井戸の掘形から一点出土している。また井戸の周辺にはSD三三二九、三一〇六、三一九四、三二一九などの溝がめぐつており、これらの溝からも木簡が計五点出土している。

S K 三三一三 井戸 S E 三三一〇の東方七mのところで検出された土壌である。一辺一・一m、深さ四〇cmの方形の土壌で、木簡は八点出土し、そのうち和銅二年銘のものと神護景雲三年銘のものとがある。

S K 三三六五 S D 三三七〇とS D 三一九四の接続点付近で検出された土壌で、天平勝宝七歳の年紀のある木簡が出土している。

S A 三三〇五 S D 三三一九の東方一mにある南北塀で、北端の柱掘形から木簡一点が出土している。同木簡は天平勝宝八歳の年紀をもつている。

(3) 東ブロック (S D 三三九七以東)

S D 三一五四・五五 S D 三一五四は、この地域の東北隅から中央へ斜行する素掘り溝であり、S D 三一五五は北端でS D 三一五四の西側にとりつき南方へ流下する素掘り溝である。S D 三一五四は幅二・〇m、深さ四〇cm、S D 三一五五は幅一・二m、深さ二〇cmである。木簡はS D 三一五五から八点、S D 三一五四からは四〇点出土している。

S A 三一七七・七八 いずれもS D 三一八〇の南岸にある東西塀で、両塀の柱穴はほとんど一線にならんでいる。木簡はS A 三一七七の西端柱掘形から一点、S A 三一七八の東から二、三、四番目の柱掘形埋土から四点出土している。S A 三一七八からは縫殿に関する文書木簡二点が出土している。

○DII-IIIK ○DII-五五の東にそつて南へ流れる素掘りの溝である。木簡は一二点出土し、若狭国三方郡からの貢進物荷札四点がみつかつてゐる。

○DII-III SBII-一六の基壇の東にある素掘りの南北溝で全長10mを検出した。SBII-一六にともなう溝と思われ、幅一

・七m、深さ1mで、木簡は天平勝宝八歳一月九日の日附をもつものが一点みつかつてゐる。

8 木簡の訣文・内容

第二二次南地区での出土木簡の内容上の特色は、以下の通りである。まず縫殿・酒殿・大藏省掌などの記載のあるものが注目され、とくに縫殿に関するものは点数も多く、それと関連しそうな女孺や衣服に関するものも出土していく、この地域の性格を考える上で注目される。またこの調査地区での木簡の出土状況について注目されることは、すでに述べたように木簡出土の遺構が六一個所にものぼつたことである。溝、土壙、井戸、建物の柱穴、整地土などの各種遺構から木簡が出土し、木簡がその時々に任意に破棄され埋められた状況を示すものといえよう。

○DII-IO溝

- (1) • × □□□〔郷カ〕清水里戸主紀臣□□□歳調塙一斗」
• × □□年□月〔六カ〕

(167)×34×4 019 11五六一號

「▽宮津郷烏賊一斤太」 142×13×3 033 11五六六號

〔御殿〕

49×22×3 022 11五六四號

(4) ×正七位上大伴宿〔祢カ〕 091 11五七〇號

SDII-III六溝

(1) 「若狭国遠敷郡佐分里三宅大人」

・「天平□寶一年□□

」 146×(19)×5 019 11五九一號

(2) 「縫殿食口 □ □ □ 合六十五人」

・「□□□□□□□事十一年□日宗我部淨虫〔女カ〕」

287×(6)×7 081 11五九八號

(3) 「山房解 □□×」 (123)×35×5 019 11五九九號

SKII-III 国一土壙

(1) • × □□申菜□□□□□〔五カ〕×

• × □□五十長□□× (150)×(25)×5 081 11六一三號

○DII-III九七溝

- (1) • 「巽一千冊六把」

雇女十五人十一人々別七十把
雇女十五人十一人々別六十九把

1977年以前出土の木簡(四)

• \times \times (225) \times (16) \times 2 081 114110449

SK 三一三土壙

(5) 「越前國坂井郡大豆一半」
〔播磨力〕
● × □□國明石郡藤江里〔戸主力〕
○ 櫻鳴時嶋」
188×21×4 051 一七四一號

・×米五斗 天平十九年十一月
(155)×19×6 019 一七四九号
〔中臣廣成□× (151)×13×4 051 一七五〇号

(7) 「因播國進酢海藻御贊二斗一升」

138×19×4 032 1171H 1号

(8) ● × □ 女孺 □ 三 □ 人 □ 二 □ 升 □ 七 □ 合 □ □ □ [君
カ] 961 一七五七号

SK III 一九土壤

(1) ×
天平神護二一年
× カ]

六溝〇〇一三三

（1）
• × 單功木工廿人功錢四百文×

• × ×
(196) × (14) × 6 081 一六九一號

SKIII-1〇一土壤

(1) × 蟠螭侍縫殿 × (98) × 18 × 8 081 二六九八号

(1) 「参河國□臣郡寸松里海部字麻呂□□」
 　米五斗 和銅二年十一月无位主帳□□麻呂」

(2) 「紀伊國海部郡可太郷戸主海部宅虫戸同小濱調□□□」
 　神護景雲二年十月十八日

(3) ×長谷部造□麻呂× (131)×(5)×4 081 11丁111号

s K III I 大丘土壤

(1) 「但馬國養父郡老左郷赤米五斗 村長語部廣麻呂 ▽
 　天平勝宝七歳五月」
 　277×26×6 031 11丁1五号
 　(108)×(11)×8 039 11丁1 七号

(2) 「阿波國那賀郡山代戸主□□×

(1) 「宮舎人縣志」等理 受物戸四口」
 　天平勝寶八歳八月十六日」

SA III I O五柵

1977年以前出土の木簡 (四)

S D II - 五四付近整地層

- ・「借請錢十一□×

• 「 四月廿□×

(89)×16×4 019 114六五号

(2) • 「若狹國遠敷郡佐文鄉三家人衣万呂御調塩三斗」

• 「 景雲四年九月廿九日□古万呂」

174×35×7 011 11八一九号

S K III - 四土壤

- ・「大和國□□郡□」
- ・「天平宝字□□」

[年
カ] 110×19×4 032 11十七〇号

• 「遠敷郡□□□

• 「 天平十九年十月

(137)×(24)×3 081 11八三九号

S D II - 三溝

- ・「V筑麻醬□ 御贊□□六升」
- ・「員五十五文 □□」

(298)×32×3 019 11十七五号

[万田
カ] 万呂薪

犬万呂薪

×病二人 黑金逃
×見十二人 五百嶋已上二人菅原 少昨薪

刀佩逃

|| 良否万呂

稻人病

奴飯万呂盛

殿万呂内舍□×

- ・「若狹國遠敷郡木津□ 壬生國足調□」
- ・「 天平勝寶□□九月廿二日」

128×37×6 011 11八〇一号

• ×□原採杭材遣 盛一束 天平勝寶八歳十一月九日 V
= 上野豐濱 (328)×(33)×5 019 11八四三号

- ・「V若狹國三方郡能登鄉 戸主栗田公麻呂□口 V
三家人□麻呂調」
- 塩參斗

209×48×6 031 11八一八号

9 関係文献

奈良国立文化財研究所 『平城宮木簡』

一九七〇年
(鬼頭清明)